

公益社団法人東京都盲人福祉協会

平成 30 年度報告書

(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日)

活動ならびに事業報告

代議員総会の決定に基づき、目的達成のため積極的な活動を行うとともに、会員の強力なご支援の下、諸事業を推進し、全て計画どおり実施した。

長年にわたり東京都に要求してきた中途失明者緊急生活訓練の指導員の増員については、ようやく 1 名の増員が認められ、次年度からその充実が図られることになった。

また当局に対し強く要求してきた障害者差別解消法(略称)に伴う東京都条例が 10 月 1 日から施行となり、ようやく目的に向かって一步を踏み出すことができた。同条例に関する相談窓口も設置され、問題解決の道も拓かれ、待望の共生社会実現に一步近づくことができた。

さらに、あん摩師等法第 19 条堅持運動は、東京地裁における裁判の傍聴、署名活動、資金カンパなど多面にわたり積極的な活動を推進したが、その成り行きは未だ不透明な状態であり、今後一層の運動強化が求められている。

本会が最も重要な課題として取り上げ運動を推進している、障害者会館建設問題は、遅々として進まず予測される首都直下地震におびえながらの会館使用となっている。同行援護で認められている介助者の代読代筆は、会館が狭隘なため同席できず、その目的が果たされないままになっている。

そうした中、本会が設置経営している就労継続支援B型事業所「パイオニア」は、従事者の皆さんの大変なご努力により、大きな実績を上げており、常時入所希望者が待機している状況が続いている。製品の販売実績も向上の一途をたどっており、将来に向けての希望は大きい。

各事業における実績は下記のとおり。

I 目の不自由な都民の福祉と生活向上等を目的とする事業

1. 更生援護事業

都盲福祉センター内に相談コーナーを設置し、各種相談に応ずるとともに助言指導に当たった。また大胡田誠、加賀谷睦子の両理事を東京都障害者福祉会館に相談員として派遣し、各種相談に応じた他、各支部役員が各自治体の委嘱を受け、身体障害者相談員として、視覚障害者の更生援護、生活の指導に当たった。

2. 第 50 回東京都盲人福祉大会の開催

第 50 回東京都盲人福祉大会を文京区視覚しょうがい者協会との共催により、10 月 30 日に文京シビックホールで開催、会員ならびに関係者約 1,000 名が参加し、当面する諸問題について宣言・決議を採択する等、有意義な一日を過ごした。

3. 交通安全対策

目の不自由な都民の歩行の安全を確保するため、東京都福祉のまちづくり推進協議会に委員を派遣し、意見の反映に努めるとともに、ホームからの転落事故防止対策、歩行の安全確保のための対策推進を関係方面に要請した。

4. 高齢者・重複障害者対策の推進

盲老人ホーム聖明園に対し見舞金を贈った他、盲ろう重複障害者に対し点字 JB ニュースの無償配布を行った。

5. 同行援護従事者の研修

各事業者が実施した同行援護従事者養成研修に対し講師を派遣し、目の不自由な都民に対する理解・誘導方法などを助言指導した。

6. 各種保険の取扱

目の不自由な都民の福利を図るため、損害賠償保険について日盲連を介

して関係企業と契約し、取り扱った。

7. 身体障害者ジパング倶楽部の斡旋

身体障害者手帳を有する、男性 60 歳以上、女性 55 歳以上に対する JR の身体障害者ジパング倶楽部制度への入会、斡旋を行った。

8. 目の不自由な都民の諸問題に関する調査研究事業

視覚障害者が日常生活を送る上で必要な支援に関する調査研究事業について(日盲連)、視覚障害当事者団体または支援組織への国際アンケート(WBU世界盲人連合ロービジョン委員会)、鉄道駅ボランティアに関するアンケート(国土交通省)等に対し協力するとともにアンケートに回答した。

9. 都内における視覚障害者団体および福祉団体との連絡調整に関する事業

【1】各区市との連携

都内各区市に設置されている視覚障害者団体(支部)との連携を密にするとともに情報交換を行った。

【2】関係団体との交流

NPO 法人 TOMO をはじめ、(公財)杉山検校遺徳顕彰会、(社福)日本盲人会連合、(公社)東京都身体障害者団体連合会など関係団体との連携を密にし、諸問題の解決に努めるとともに支援した。

【3】組織の拡大強化

都内各区市に視覚障害者団体を組織するとともに、都内盲学校、視覚障害者関係施設にパンフレットを配布し、会員の増員に努めた。組織部では組織強化対策の一環として各支部長と意見交換を行った他、7 月 25 日に東京都眼科医会と懇談した。

10. 盲人用具の改善普及ならびに斡旋に関する事業

目の不自由な都民の便宜を図るため、盲人用具の紹介、斡旋を行った。

11. 点字出版・録音物の制作発受に関する事業

情報サービスの一環として、点字による印刷物を随時作成し配布した他、点字使用の困難な目の不自由な都民を対象に録音物等を製作し情報サービスに努めた。

12. 目の不自由な都民への生活および福祉等の情報提供に関する事業

【1】点字東京の発行

機関誌「点字東京」を第 299 号から同 304 号まで、点字、活字、メール、音声版を発行した。

【2】声の東京の発行

「声の東京」をカセットテープならびにデイジー版を毎月製作発行した。

【3】日盲連広報誌の配布

日盲連発行の愛盲時報(活字版)および日盲連アワー(音声版)、声の厚生(音声版)を各支部に配布した。

【4】各種通達の発行

各種連絡、諸事業の紹介伝達を行うため、都盲協発第 1 号から同 156 号までを発行、周知徹底を図った。

【5】メーリングリストの利用

都盲協メーリングリストを利用し、各種情報交換等を行った。

【6】ホームページの活用

本会活動について、ホームページを活用し啓発広報に努めた。

13. 福祉委員会の開催

福祉諸問題について会長の諮問を受け意見を具申するため、委員会を開催しこれに当たった。

14. 目の不自由な都民に対する東京都の受託事業

東京都福祉保健局、生活文化局、教育庁の委託、補助による諸事業を実施した。

【1】点字による即時情報ネットワーク事業および電話ナビゲーション事業

【2】点字・録音刊行物作成配布事業(年 12 回)

【3】施術者講習会事業

【4】広報東京都音声版作成配布事業(年 12 回)

【5】視覚障害者音楽教室事業(年 11 回)

【6】家庭生活訓練事業(67 回)

主な内容 IT 教室、料理、リズム体操など

【7】中途失明者緊急生活訓練事業

主な内容 歩行訓練、点字指導、家事、IT機器訓練など

【8】盲青年等社会生活教室開催事業(青年 36 回、シルバー40 回)

主な内容

(盲青年)就労問題、移動・交通問題、IT教室、ヨガ教室など

(盲高齢)短歌・川柳教室、講演会、民謡など

Ⅱ 目の不自由な都民の職業対策を支援する事業

1. 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

就労継続支援 B 型事業所パイオニアを設置、点字印刷、点字シールの作成、広報東京都音声版の作成、テープコピー、点字用紙の古紙を利用した封筒製作・販売などを行った他、新宿区の緑化事業に協力し、花壇の整備管理に当たった。

2. 研修会の開催

はり・きゅう・マッサージ従事者の資質向上を図るため、講師に吉川はり物療院院長吉川恵士氏、筑波技術大学教授藤井亮輔氏、都立文京盲学校教

諭栗原勝美氏を招聘し6回にわたり研修会を開催した。

3. 諸対策

平成医療学園違憲訴訟問題をはじめ、無資格者の徹底取り締まり、職域の拡大などの諸問題を解決するため、日盲連の方針に従いその推進に当たった。

4. はり・きゅう・マッサージ健保取扱の代行

はり・きゅう・マッサージの健康保険、後期高齢者医療等の取扱に際し、その便宜を図るための事務手続の代行を行った。

5. 職業委員会の開催

職業対策を推進するため会長の諮問に応じ委員会を開催、意見をまとめ会長に答申した。

6. 保有証発行手続

無資格類似行為者の一掃を図るため、厚生労働大臣免許保有証を発行、はり・きゅう・マッサージ従事会員に呼びかけその手続きを行った。

Ⅲ 目の不自由な都民の教養・文化および スポーツ・レクリエーションに関する事業

1. 指導者研修会の開催

11月5日 東京都障害者福祉会館で開催、講師に東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課課長代理松川邦夫氏を招聘し、「障害者差別解消法に基づく東京都条例」について研修した。

2. パソコン教室の実施

ボランティアの協力のもとにパソコン教室を開催、緊急を要する視覚障害者

を対象にパソコンの指導を行った。

3. 徒歩訓練の開催

10月8、9の両日、那須、会津方面を訪れ、明神岳、安達太良山、大内宿、天然記念物の塔のへつりを散策する等、見聞を広めるとともに、会員相互の友好親睦を図った。

4. 芸能コンクールの開催

平成30年度芸能コンクールを10月30日、文京シビックホールで開催した。(敬称略)

優 勝 小池靖昭 (北区)

準優勝 明石喜久雄 (調布市)

第3位 大沼須磨子 (渋谷区)

5. 東京都盲人体育祭の開催

4月30日文京区の小石川運動場で第31回東京都盲人体育祭を開催、会員と家族ならびにボランティア等、約250名が参加し有意義な一日を過ごした。

6. 東京都障害者スポーツ大会への参加

東京都多摩障害者スポーツセンター等で開かれた第19回東京都障害者スポーツ大会に会員有志が参加し活躍した。

7. 代表選手の派遣

第32回関東地区サウンドテーブルテニス大会(川崎市)に代表選手を派遣、穴原正子氏(北区)が第3位に入賞した他、本会中心で編成したグランドソフトボールチームは、第48回関東地区グランドソフトボール大会(茨城県)で見事優勝した。

8. タンデムを楽しむ集いの開催

東京サイクリング協会の協力を得て、パレスサイクリングコースにおいて、3回にわたりタンデムを楽しんだ。

9. 会員との交流会

4月7日、11月14日、会員の要望や意見を聴取することを目的に都盲福祉センターで交流会を開催、会員の意向の反映に努めた。

IV その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 第71回全国盲人福祉大会の開催

日本盲人会連合結成70周年記念第71回全国盲人福祉大会を6月11日から13日の3日間、浅草ビューホテル、東京文化会館で開催、全国の代表が一堂に会し、当面する諸問題を協議するとともに相互交流を深めた。なお3日目の大会式典は秋篠宮ご夫妻ならびに小池都知事が臨席した。

2. 各部会活動

青年、女性、シルバー、体育の各部会を設置し、それぞれの特性に応じた部会活動を推進した。

3. 受賞者祝賀会ならびに交流会の開催

厚生労働大臣表彰を受賞した中山政義監事、都知事賞を受賞した吉田美奈子副会長を祝うとともに相互交流を図るため、1月17日千代田区のアルカディア市ヶ谷で受賞者祝賀会ならびに新年交流会を開催した。

4. 各種事業の受託

日常生活に必要な情報を提供するため、東京電力、東京ガス、民営鉄道、東京乗用旅客自動車協会などの委託を受け、点字シール、点字領収証など

の作成に当たった。

5. 会員への弔意

会員の死亡に際し弔慰金ならびに弔電を送り、哀悼の意を表した。

(以下、順不同・敬称略)

阿佐 博 (板橋区)	星野正一 (足立区)
森川正之衛 (足立区)	山中紗枝子 (港区)
島寄秀五郎 (東村山市)	梶山達雄 (小平市)
牧野 清 (葛飾区)	松本松扇 (昭島市)
山本 静子 (町田市)	飛鳥馬武男 (台東区)
大坪とし子 (新宿区)	坂本 芳雄 (江戸川区)
宮崎 金次 (大田区)	相澤エイ子 (荒川区)
高野圭以子 (足立区)	山下 満蔵 (世田谷区)
柳本三木男 (足立区)	大野 皓市 (北区)
伊藤 善幸 (国分寺市)	

なお、本会ならびに東京都盲人福祉センターの運営に当たっては、正副会長会 3 回、常任理事会 1 回をはじめ、理事会 4 回、支部長会 2 回を開きこれに当たった。

また、東京都における目の不自由な都民のための福祉施策充実のため、東京都をはじめ、関係各方面に対し積極的な運動を推進した。